

### 国語【発展コース】

物語や説明文の授業も読解力を養っていく上で大切な活動ですが、詩や俳句の授業もやはり重要だと私たちは考えています。

五・七・五作文は、わずが17音で、その時に感じた気持ちや風景を表現しなければなりません。語彙力や言葉選びのセンスが問われてくることは言うまでもありません。俳句や詩を学ぶことで培った力が、現代社会で必要とされているコミュニケーション力、プレゼンテーション能力につながります。

「たい焼き」は「たい(のような形に)焼いたお菓子」、「カニカマ」は「カニ(の色・形・食感を真似した)カマボコ」というように、私たちの身の回りにはメタファー、比喻表現があふれています。私たちの教室でも「一流レストランのように上品に給食を食べよう!」、「子どもは風の子」など比喻表現を用いて子どもたちに関わることが多くあります。比喻表現を用いた方が端的に、スマートに気持ちや考えを伝えることができる、そういう利点があります。



今回はi-Padを使って写真詩を制作しました。中庭に出ると地面に這いつくばるように寝転んで写真を撮る子たち、枯れ葉をザクザクと踏みしめながら音を体感する子、真っ青に晴れ渡った空に何回もシャッターを押す子…と、みんながそれぞれに秋を感じ、それを17音で表現しようと一生懸命でした。

言葉の選び方、写真の撮り方、レイアウト、さすが高学年だなと思わせるものばかりで、子どもたちの柔軟な思考、高いクリエイティブ性に感心しました。

朝起きたら歯を磨くように。お箸を使ってご飯を食べるように。学校に来たら上靴にはきかえて校舎に入るように。日常生活の中に詩や俳句の制作が自然な営みとして、馴染みのある活動として位置づけられた時、コミュニケーション力はもちろん子どもたちの感性や人間関係がより豊かなものになっていくというロマンを、これからも追いかけていけたらと思っています。

ぜひご家族でも、お出かけの際やお食事の際など毎日のいろんな場面で、お子様と一緒に俳句づくりを楽しんでいただけたらと国語専科としては密かに願っている次第であります。

※物語文・説明文など、進度は、進学コース同様です。

各コースでの取り組みや授業での様子、英語の最新情報、中学入試についてなど、様々な情報をお知らせさせていただくため、『コース通信』を発刊いたします。今号では、『各教科での活動』『大学入学後に差がつく、小中高で身につけておきたい力とは?』を掲載します。

### 国語【進学コース】

2学期後半、5年生の進学コースは国語で、説明文『和の文化を受けつぐ～和菓子をさぐる～』と物語文『大造じいさんとがん』の学習を進めました。

『和の文化を受けつぐ』では、まず、本文を読んで筆者の説明の仕方、つまり序論・本論①・本論②・本論③・結論から成り立っていることと、その内容について読み取りました。その後、「和の文化」について、iPadや資料を使って調べました。そして、自分が興味を持った和の文化の一つに絞り、リーフレットを書きました。和菓子についてさらに調べた人もいましたが、その他に、寿司、箸、城、刀、染め物、お盆、アニメなど、様々な日本文化を調べていました。発表会では、写真だけでなく、表やクイズなども取り入れ、自分が調べた文化について、しっかりと発表することができました。



『大造じいさんとがん』は、保護者様の中にも小学校で習ったという方がいらっしゃるほど、息の長い学習教材です。椋鳩十さんの、風景や戦う様子だけでなく、そこから読み取れる心情の描写の見事さを、存分に味わっていきたい作品です。初めて本文を読んだとき、子どもたちは、『残雪の頭領としてのカッコよさ』に心打たれたようでした。今回は、場面ごとに読み取った後、その場面の大造じいさんの思いを『大造じいさん日記』として綴っていきました。クライマックスの残雪とはやぶさが戦う場面を学習した後に『大造じいさん日記』を書いたときには、みんな黙々とえんぴつを動かして、大造じいさんの残雪に対する思いを書き綴っていました。

3学期も、一つ一つの言葉を大切に、日本語の美しさを学んでいきたいと思えます。

### 英語【発展コース】

フィリピンの方(フローレンスさん)との交流を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの影響で来日していただくことが叶いませんでした。そこで、子どもたちは、フィリピンについて調べ学習を行い、次回の交流まで知識を蓄え、よりよい交流ができるように準備しています。また、調べた内容をkeynoteにまとめて英語でプレゼンテーションにも挑戦します。その動画はフローレンスさんにお送りし、zoomで感想をいただき交流を深めていきます。児童たちは、人口や季節、食べ物や動物など、グループに分かれてフィリピンの魅力をまとめています。



## 理科

『流れる水のはたらき』の学習で、流す水の量を変えると土の削られ方が変わったり、カーブしたところでは、流れの外側がよく削られるということを実験しました。

プランターの底受けに土を入れて、グループ実験をしましたが、実際の川と同じように流れの外側の土がよく削られ、水量が多くなると削られ方も大きくなるのが確かめられました。

土が流されていく様子が面白くて、だんだん、土を流したりカーブを削ったりしたくて、洪水のように大量の水を流しているグループもありましたが、削られた土は、カーブの内側や流れがゆるやかになった下流側にたまって川原や三角州ができるという、川の地形もある程度感じられる結果を出せていました。

また、川原の石は、丸みがあることの原因を考える実験もしました。入れ物に防犯砂利を水と一緒に入れて1000回から1万回ほど振り、振れば振るほど砂利の角が取れることから、丸い石は、ごつごつと角張った石が流水の働きでぶつかり合ってきたということがわかりました。

一人一人マッチで火をつけてアルコールを燃やし、濡れ雑巾をかぶせて消す練習や、ガスバーナーの火で丸底フラスコの水を沸騰させて空気を追い出してから冷やし、水蒸気が水に戻ることで内部が減圧することを利用して、フラスコの内側にゴム風船を吸いつかせるという実験もしました。

火を使いこなす技能を高めたり、温度によるものの変化や物もえるために必要な条件を総合的に学ぶ時間もとったり、理科への興味を深めることができました。



## 算数【発展】

10月に入り、9月からの続きで、『分数のかけ算・わり算(6年生の学習内容)』『面積』と学習し、現在は、5年生の算数の最大の山場の『速さと割合』に入りました。とりあえず、12月中には速さをきちんとマスターできるようにと考えていますが、なかなか苦戦しています。その後の割合も速さと同じように難しそうです。ここをなんとかものにできるようにしたいと考えています。

分数の四則演算は、9月の延長で順調に進み、6年生の学習部分も理解できたようです。ただ、面積に入ると少し難しいと感じる子もいます。図形が苦手なところから、やや消化不良な部分が見られました。5年生で残っている分野が、円と多角形、角柱と円柱になり、3学期は、5年生の総復習をする時間が十分にとれそうです。特に定着が悪い分野をもう一度基本に戻り、きちんと演習をして、6年生へとつなげたいと思います。

4月から授業開始の3分半(最初は4分)50問の四則計算を続けています。四則計算ができないと問題を解く時、大きなマイナスになります。3分半の計算の集中力は必要なことですし、訓練すればできてくると思います。最初は、あまり集中できていない児童達も10月ぐらいから全員の気合いの入りが違ってきて、80点以上の児童が多くなりましたし、間違うと悔しがるようになりました。その流れで、授業に入れてすこずつ高学年の授業態度になりつつあります。6年生になって困らない算数の基礎力をつけさせたいと考えています。

## 算数【進学コース】

2学期は『面積』から学習を始めました。三角形や台形など、面積を求める計算は全員ができていました。等積変形などの応用問題は少し苦戦する人も見られました。入試では絶対に必要なスキルなので、苦戦した人はこの冬休みにしっかりと復習しておきましょう。

『分数の計算』では、5年生の教科書から飛び出して、6年生内容の「かけ算とわり算」まで学習し、全員がきちんとできるようになりました。これで、四則計算はすべて学習が終わりだったので、朝のPTでは、中学入試で出題された計算問題の寄せ集め演習をするようになりました。少しずつ慣れてきて、今ではほぼ全員が半分以上を毎回正解できるようになり、何人かは全問正解できるようになりました。速く正しく解けるようになることを目標にがんばりましょう。

10月からは、中学入試の文章題の「肝」となる『速さと割合』へと学習を進めました。どちらも応用問題になると相当難しくなります。しかし、難関中学への合格を目指すのであれば、避けては通れません。6年生になってから何度も復習しますので、苦手意識のある人も腹をくくって立ち向かってください。

『多角形と円』を学習し、2学期までに5年生で学習すべき内容を終えました。3学期は、これを受けて、6年生の『円の面積』の先取り学習から始めます。

6年生の入試が終われば、みなさんが受験生です。3学期からは、これまで6年生にやっていたように、休み時間を利用しての指名補習を行います。指名されなかった人でも、質問があれば補習の教室に来て、どんどん質問してください。塾の問題などでもかまいませんよ。

みなさんからの「もっと難しい問題ちょうだい～」という声を待っています。

### 大学入学後に差がつく、小中高で身につけておきたい力とは？

学園入試企画室 室長 吉永先生へインタビュー

さて、皆さんは「学校と社会をつなぐ調査(通称:10年トランジション調査)」をご存じでしょうか?これは2014年から京都大学と河合塾が共同で行っている調査で、同じ生徒(2014年時高校2年生)を10年間継続して追いかける、日本では他に例を見ない大規模調査研究です。まだ最終段階までできていませんが、私が注目しているのは第2回調査にあたる大学1年生時の結果です。

大学1年生の時点で、社会で活躍するために必要な力とされている「他者理解力」「計画実行力」「コミュニケーション・リーダーシップ力」「社会文化探究心」さらには「学力」とも大きく関係していたのが「主体的な学習態度」です。もちろん「主体的な学習態度」が高いほど、これらの力が高いという関係性が見て取れます。さらにこの「主体的な学習態度」と関係性の高い、高校時点での能力として「コミュニケーション力」「リーダーシップ力」「キャリア意識」があげられていました。この結果から最も大切なことが「主体的に学ぶ」ということは明らかです。特に「受験のためにやらされる勉強」ではなく、大学進学への目的意識を持ち「自分の将来のために自らやる勉強」へ意識・行動を変えることが将来大きな差を生みます。また、さまざまな体験・経験を仲間とともにやり、議論をしたり発表をしたりする経験が後の成長につながってくる。つまり、自分の考えや体験を「言語化」できる力がこの「主体的な学び」を加速させると言えるでしょう。変化の速い現代、ジェネリクススキル(汎用的能力)を磨いておくことが重要視されてきています。このような結果を参考にしながら、中学校選びを考えてみるのも良いでしょう。

